

反射材と交通安全

平成17年中の交通事故による死者数は5年連続の減少となるとともに、昭和31年以来49年ぶりに6千人台まで減少したところであるが、歩行中の死者数は2,104人で、全死者数に占める割合が3割を超えている。特に夜間歩行中の死者数はその約7割を占め、また、死傷者に占める死者の割合を昼間と夜間で比較すると、夜間の割合は昼間の約3.8倍となっている。

このような情勢を踏まえ、「10年間で交通事故死者数を5,000人以下とする」という政府目標を達成するためには、夜間歩行中の交通死亡事故抑止が重要な課題となっている。

一方、反射材については、夜間事故の防止に効果があり、認知はされているが、保有又は使用している者の割合は低くなっており、国では、こうした状況を踏まえ、ドライバーからの視認性を高める反射材の活用を積極的に働きかけ、夜間事故の防止に努めているところである。

ここでは、平成17年度に警察庁及び都道府県警察において集中的に実施した反射材活用キャンペーンを中心にその活動内容を紹介する。

1 反射材と視認性

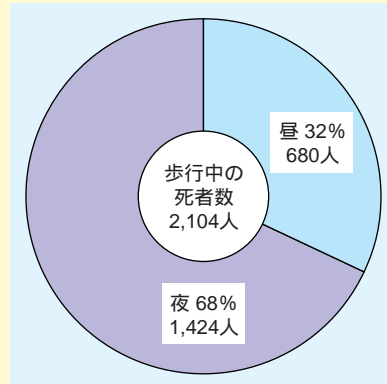
反射材は、再帰性反射という性質を持つ素材であり、どの方向から光が当たっても、元の光源方向に反射するように光学的な工夫が施された素材である。歩行者等が反射材を着用していると、その反射材に車の前照灯の光が当たり、光源である自動車に向かって光を反射する。するとドライバーからは非常に光って見え、遠くからでも歩行者等の存在が認識できる。

2 警察庁が実施したキャンペーン活動

警察庁は、各都道府県警察の啓発活動と連動して、反射材活用キャンペーンを全国的なものとするため、啓発用のビデオを作成するとともに、平成17年9月から平成18年1月までの間、反射材専用のホームページをインターネット上に開設し、PRに努めた。

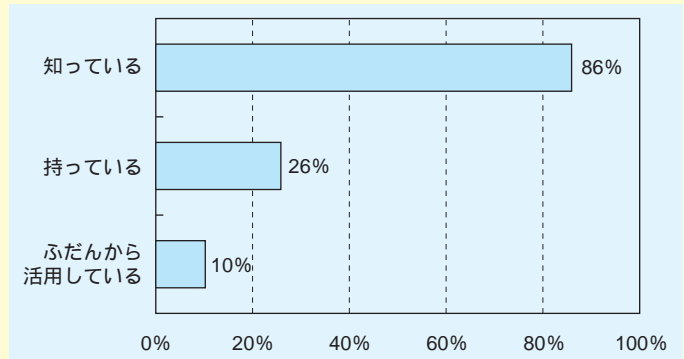
(1) 反射材ホームページへのアクセス数等

平成17年昼夜別歩行中の交通事故死者数



注 警察庁資料による。

世論調査にみる歩行者用反射材の認知、保有及び使用の状況



内閣府：交通安全に関する特別世論調査（平成16年12月）

警察庁ホームページ



反射材活用の啓発用ビデオ



専用ホームページへのアクセス数 約6万7千人（1日平均438人）

警察庁ビデオ（反射材はいのちの光）閲覧者 約5,400人

（2）アンケートにみる反射材使用の効果等

専用ホームページから，日常的に反射材を活用するモニターを募集し，3回にわたるアンケートにより反射材の着用効果等について尋ねた。

反射材活用モニター登録者数 約5,500人（男63%，女37%）

夜間外出時に反射材を毎回使用した者 23%から35%に増加

反射材の使用に抵抗感ある者 20%から5%に減少。

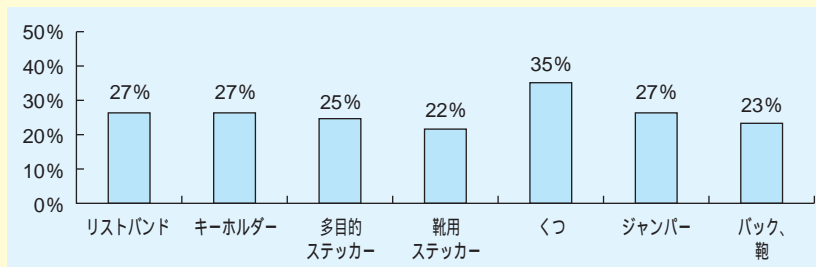
「近づく車が速度を落とした」などの反射材の効果を体験した者 39%

反射材を着用した歩行者の視認性の向上を確認した運転者 99%

今後も反射材を使い続ける者 80%

モニターが使用した主な反射材

使用した主な反射材の種類



アンケート結果

3 都道府県警察の主な広報啓発活動

（1）県民運動の実施

セーフティナイト作戦，オーロラ作戦，「あし・ピカ」運動など親しみやすい名称を用い，反射材を街頭，高齢者宅訪問，各種講習会等様々な機会に配布し，また，日頃使っている靴に直接貼付するなど県民運動として各種活動を行った。

（2）知事，首長等も参加した街頭キャンペーン

自治体をはじめ関係機関・団体等の多くのボランティアを動員し，主要な交差点や繁華街において，反射材を着用した参加者がその効果をアピールしつつ，チラシや啓発品を配布して反射材の活用を呼びかけた。

（3）夜間講習会の開催

夜間に自動車教習所や学校等で，実際に車を使い，服装の色や反射材の有無による見え方の違い，車の前照灯で見える範囲の確認，対向車の光による蒸発現象の実験など，反射材の効果，使用方法等について理解を深めてもらう参加・体験・実践型の講習会を開催した。

（4）反射材ファッションショー等の開催

反射材を用いた靴，ジャンパー，コート，帽子，かさ，手提げバックなど反射材を組み込んだ衣料，身の回り品等だけでなく，反射材タスキ，反射シールを貼った靴，反射材キーホルダーの取付なども紹介しつつ，反射材活用の多様性とその効果を理解するイベント等を開催した。

また，反射材を身近に感じてもらうため，反射材Tシャツコンクールなども実施した。

（5）反射材着用推進員等の委嘱

反射材の貼付活動



地域の高齢者団体等を中心に、市町村長や警察署長名により、反射材着用推進員に委嘱し、反射材の着用を率先させるとともに、地域住民に反射材の活用を呼びかける活動を行った。

4 反射材の活用推進

(1) 効果を体験できる交通安全教育の推進

今回の反射材活用キャンペーンを通じて、反射材の効果を体験したモニターは、反射材を使い続ける傾向にあることが再確認された。

反射材の効果を体験し、反射材の効果を正しく理解することができる体験型の交通安全教育を今後とも推進する。

(2) 衣類等日常的に使用される反射材製品の普及促進

反射材の常時活用を普及するためには、日常的に使用している衣類や身の回り品に自然な形で反射材が組み込まれていることが反射材の定着化に向けて効果的であるので、関係業界、団体等が参加する反射材活用推進委員会の活動支援などにより、多様な反射材製品の開発と流通を促している。

第3節 安全運転の確保

1 運転免許保有者数及び運転免許試験の実施状況

(1) 運転免許保有者数

平成17年12月末現在の運転免許保有者数は、前年に比べて約55万人（0.7%）増加して約7,880万人となった。このうち、男性は約12万人（0.3%）増加して約4,514万人、女性は男性の増加数を上回る約44万人（1.3%）増加して約3,366万人となり、その構成比は男性57.3%、女性42.7%となった（第18表）。

また、年齢層別の増加数では、65歳以上の高齢者が約49万人（5.3%）増加し、増加数の89.6%を占めた。

運転免許の取得可能な16歳以上の人口に占める運

転免許保有者数の割合は、72.3%（男性85.7%、女性59.8%）となり、年齢層別では、35～39歳の年齢層が94.5%（男性98.5%、女性90.5%）で最も多く、次いで30～34歳の年齢層となった（第131図）。

運転免許の種類別保有者数は、第一種普通免許保有者が約6,904万人で全体の87.6%を占めた（第19表）。

障害者の運転免許については、運転できる車両の限定の条件が付されているものが延べ29万8,979件、補聴器使用の条件が付されているものが延べ5万382件となった。

なお、平成17年中の国外運転免許証の交付件数は34万3,002件で、前年に比べ1万3,185件（3.7%）

第18表 運転免許保有者数の推移

（各年12月末現在）

年	保有者数					対前年増減率			人口に対する割合		
	全体	人員		構成率		全体	男性	女性	全体	男性	女性
		男性	女性	男性	女性						
	千人	千人	千人	%	%	%	%	%	%	%	%
平成13年	75,551	44,143	31,407	58.4	41.6	1.2	0.6	1.9	70.2	84.6	56.6
14	76,534	44,489	32,044	58.1	41.9	1.3	0.8	2.0	70.9	85.1	57.5
15	77,468	44,786	32,682	57.8	42.2	1.2	0.7	2.0	71.4	85.4	58.4
16	78,247	45,020	33,227	57.5	42.5	1.0	0.5	1.7	72.0	85.7	59.2
17	78,799	45,136	33,663	57.3	42.7	0.7	0.3	1.3	72.3	85.7	59.8

注 1 警察庁資料による。
 2 運転者管理センターにおける集計数である。
 3 人口に対する割合（%）は、16歳以上の運転免許適齢人口に占める運転免許保有者数の割合である。
 なお、人口は、各年10月1日現在の総務省推計人口（16年及び17年はそれぞれ12月1日現在の総務省概算値）による。
 4 単位未満は四捨五入しているため、全体と内訳が一致しないことがある。